平成 29 年度外国語学部実感調査結果分析（詳細）

1. 設問相互の関係

設問の中で、「満足度」は「面白さ」、「習得度」、「理解しやすさ」と高い相関を示している。これらの設問の回答をクロス集計すると以下の通りである。なお、欠測値がある場合は除外しているので、合計は一致しない。

図 1 「面白さ」×「満足度」（クロス集計）

	1	←	満足度	→	5
5	2	3	32	476	8852
↑	3	27	471	6680	1476
面白さ	9	112	2500	1160	150
↓	47	317	259	82	21
1	210	51	41	12	6

図 2 「習得度」×「満足度」（クロス集計）

	1	←	満足度	→	5
5	5	9	110	996	8804
↑	9	91	940	6613	1515
習得度	29	154	2097	745	161
↓	74	230	130	56	18
1	155	27	25	2	7

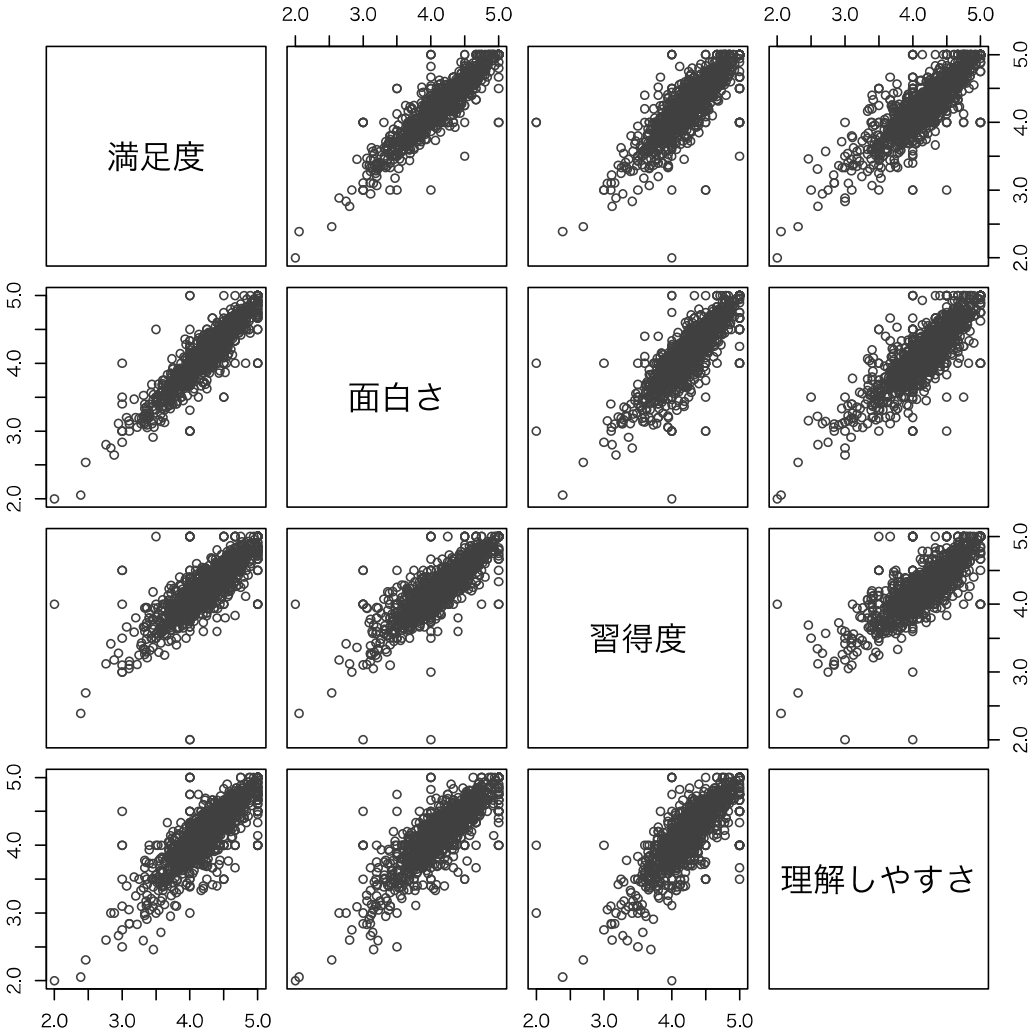
図 3 「理解しやすさ」×「満足度」（クロス集計）

	1	←	満足度	→	5
5	7	16	110	965	8458
↑	9	77	826	6259	1773
理解しやすさ	28	147	2034	1030	230
↓	46	213	298	150	35
1	182	58	36	10	11

「面白さ」、「習得度」、「理解しやすさ」について、「満足度」と同じ回答をしているものが多数を占め、その割合は、「面白さ」が 81%、「習得度」が 78%、「理解しやすさ」が 75%である。

授業単位のデータで散布図を作成しても、これらの設問については高い相関が見られる。

図 4　「満足度」「面白さ」「習得度」「理解しやすさ」（散布図行列）



他方、「満足度」は「準備学習時間」との相関が低い。回答のクロス集計は以下の通りである。

図 5　「準備学習時間」×「満足度」（クロス集計）

	1	←	満足度	→	5
3時間以上	9	9	41	127	748
2時間30分～3時間未満	8	9	53	239	413
2時間～2時間30分未満	12	26	126	478	809
1時間30分～2時間未満	13	38	427	1048	1519
1時間～1時間30分未満	33	80	693	1777	2223
30分～1時間未満	56	113	837	2475	2563
30分未満	140	235	1117	2260	2223

「満足度」が高い学生ほど「準備学習時間」が長い傾向は見られるものの、短い学生も多

い。準備学習時間が短くても満足してしまう学生が存在している。

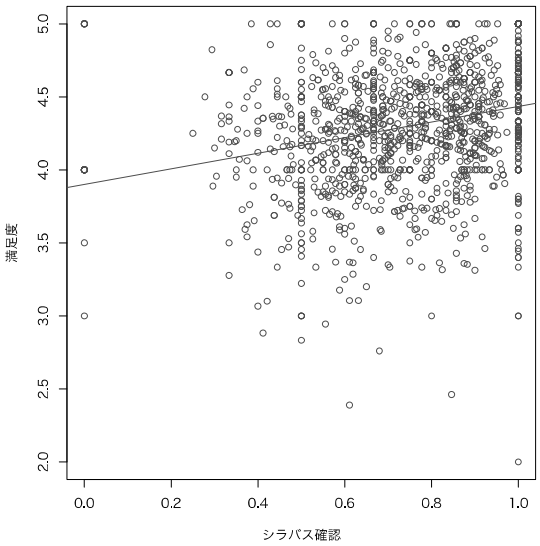
「シラバス確認」と「満足度」についても相関が見られた。

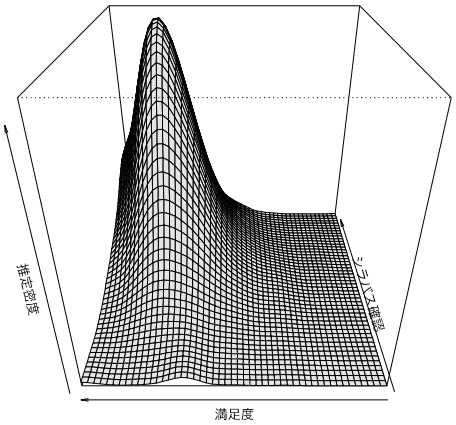
図 6　「シラバス確認」×「満足度」（クロス集計）

	1	←	満足度	→	5
確認した	142	281	2024	6096	8433
確認していない	130	229	1262	2276	1997

しかし、授業単位で見た場合には、相関が弱い。

図 7　「シラバス確認」×「満足度」（散布図・カーネル密度推定）





シラバスの確認をする学生の方が授業に満足する可能性が高いが、授業単位で見た場合には、シラバスを読むかどうかは、授業の内容よりも、それ以外の要因（必修か選択かなど）に依存しているということではないかと想像される。

準備学習時間に関連する回答をクロス集計したところ、以下のようになった。

図 8　「準備学習時間」×「シラバスの指示の参照」（クロス集計）

	していない	←	シラバスの指示を参考に	→	した
3時間以上	39	17	73	80	724
2時間30分～3時間未満	18	22	103	284	295
2時間～2時間30分未満	55	48	313	526	493
1時間30分～2時間未満	159	129	953	943	845
1時間～1時間30分未満	342	364	1547	1275	1243
30分～1時間未満	590	641	1900	1550	1332
30分未満	1290	633	1943	977	1070

準備学習に時間をかけている学生は、シラバスの準備学習についての指示を参照している。しかし、シラバスの指示を参考にしていても、準備学習時間が長いとは限らない。

図 9　「準備学習時間」×「準備学習でするべきことの明確さ」（クロス集計）

	不明確	←	準備学習	→	明確
3時間以上	4	5	39	112	756
2時間30分～3時間未満	2	6	30	264	414
2時間～2時間30分未満	6	13	139	508	771
1時間30分～2時間未満	12	57	510	1071	1370
1時間～1時間30分未満	28	125	850	1772	1994
30分～1時間未満	69	279	1300	2234	2098
30分未満	388	512	1770	1715	1523

準備学習に時間をかけている学生は、するべきことが明確だったと回答している。しかし、するべきことが明確だったと回答していても、準備時間が長いとは限らない。

図 10　「準備学習でするべきことの明確さ」×「シラバスの指示の参照」（クロス集計）

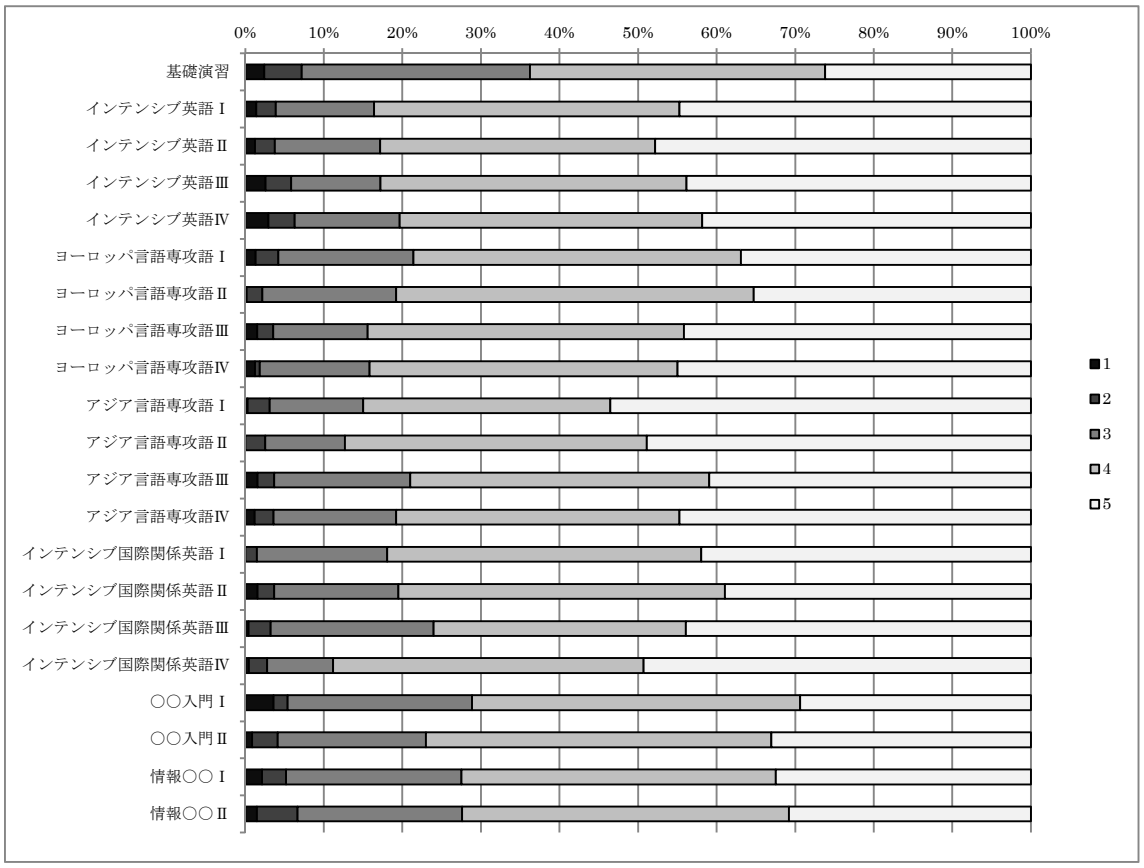
	していない	←	シラバスの指示を参考に	→	した
明確	772	454	1653	1825	4177
↑	659	629	2423	2733	1194
準備学習	561	452	2284	862	436
↓	217	233	322	127	84
不明確	265	65	99	40	39

「準備学習でするべきことの明確さ」と「シラバスの指示の参照」は正の相関を示している。

2.　１・２年生の必須科目

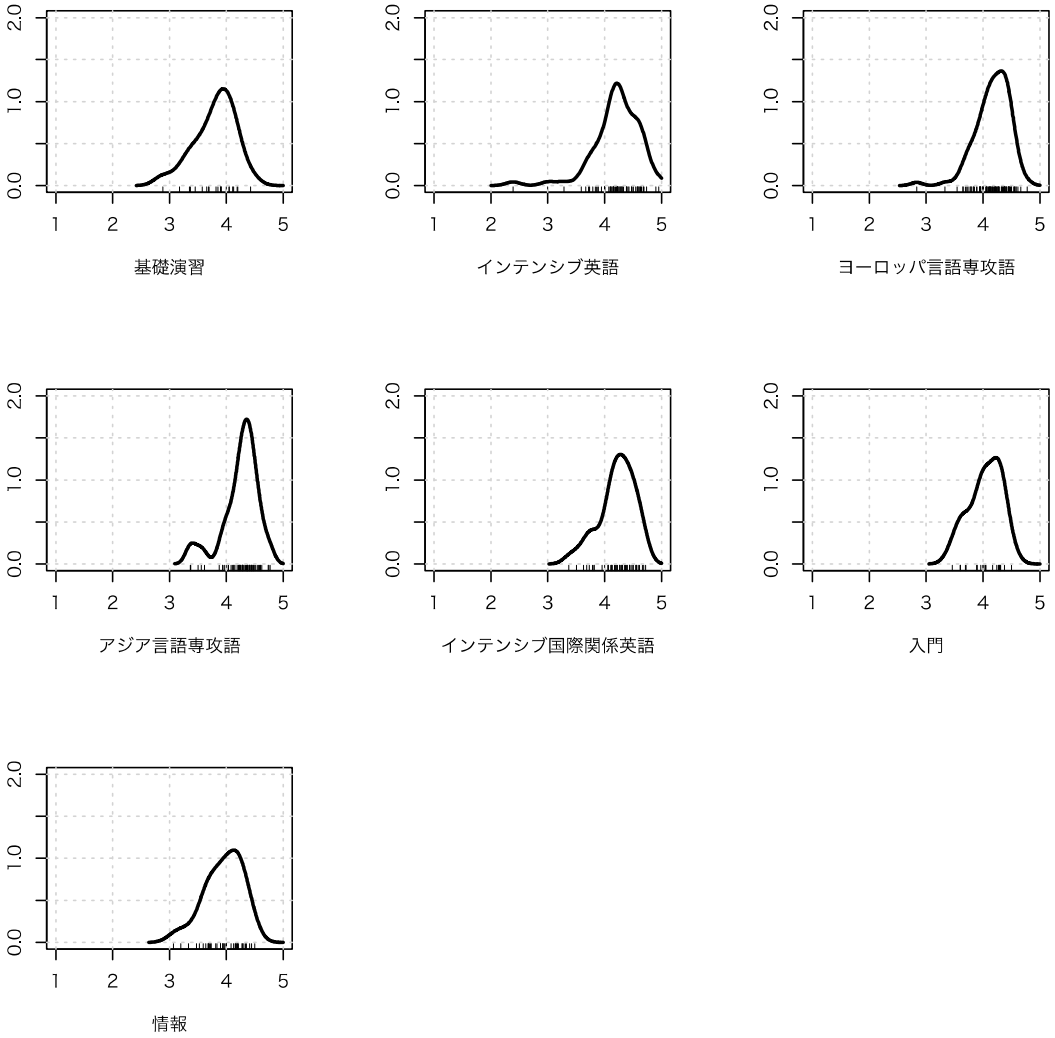
科目カテゴリー毎に、満足度についての回答の割合を調べた。必修語学については学科毎にⅠ～Ⅳに分類した。それ以外の科目については、科目数が少ないので、学科に分けることはせずにまとめた。「〇〇学入門」と「情報〇〇」については、ⅠとⅡで分けた。

図 11　１・２年生必修科目満足度割合



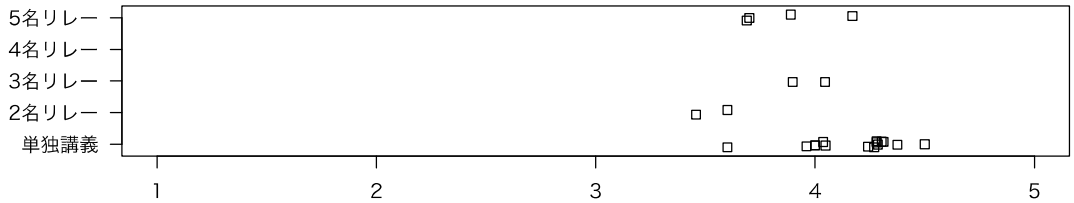
従来通り、「基礎演習」の満足度がもっとも低い。今回は、「○○入門」と「情報○○」の満足度が、それに次いで低めであることが分かった。クラス毎の満足度の分布にも、概ね同じ傾向が現れている。ただし、以下のグラフでは、セメスターの区別をせずに統合した。

図 12　１・２年生必修科目クラス単位満足度分布（カーネル密度推定）



「〇〇入門」については、リレー講義科目の方が相対的に満足度が低くなる傾向が見られる。

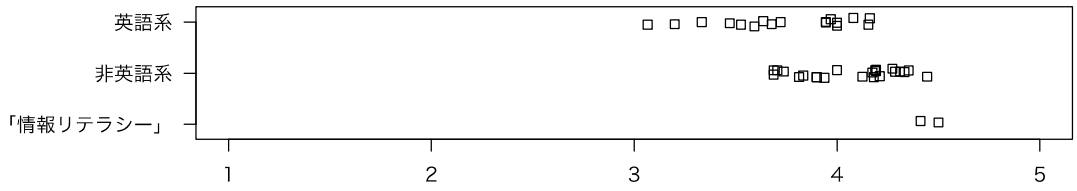
図 13　「〇〇入門」満足度（ドットチャート）



リレー講義の運営の仕方について、改善の余地があると思われる。

「情報〇〇」については、英語系が相対的に満足度が低い傾向が見られる。

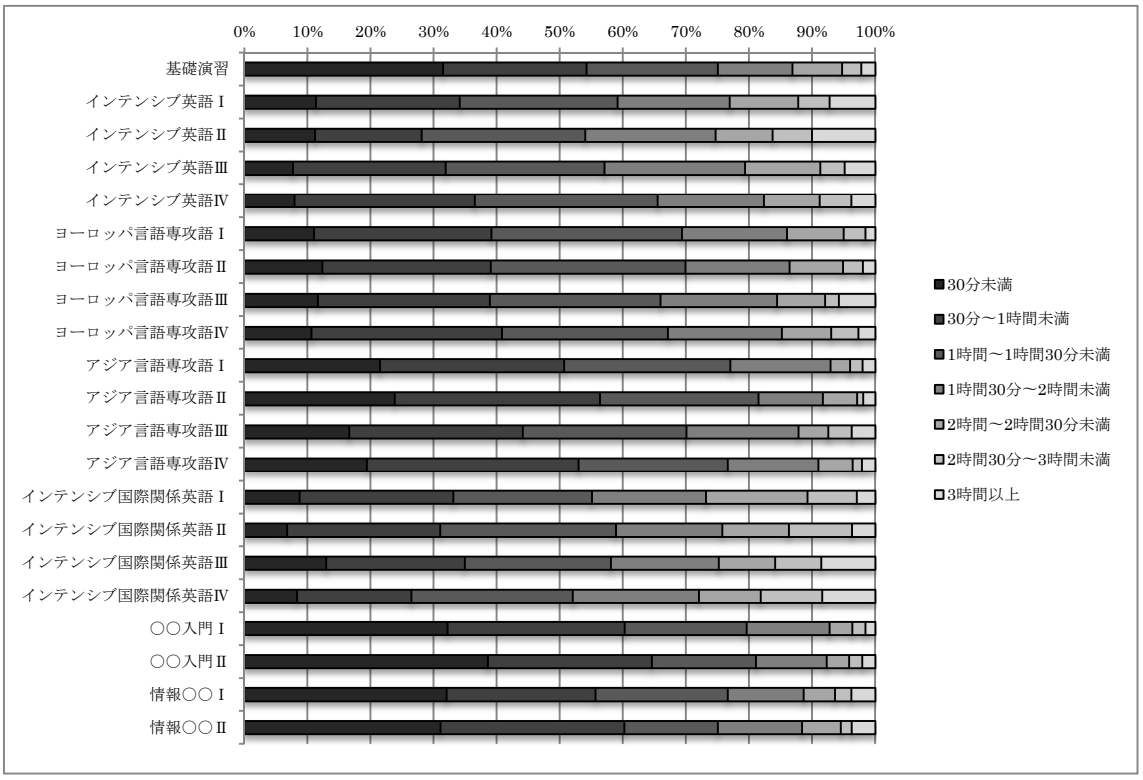
図 14　「情報〇〇」満足度（ドットチャート）



「情報リテラシー」が極めて満足度が高い。カリキュラムや内容に違いはあるものの、他の「情報〇〇」の改善の参考になる要素があるのではないだろうか。

事前事後学習について、科目カテゴリー毎に回答の割合を調べた。「基礎演習」「〇〇入門」「情報〇〇」は、必修語学に比べて、事前事後学習の時間が短い。

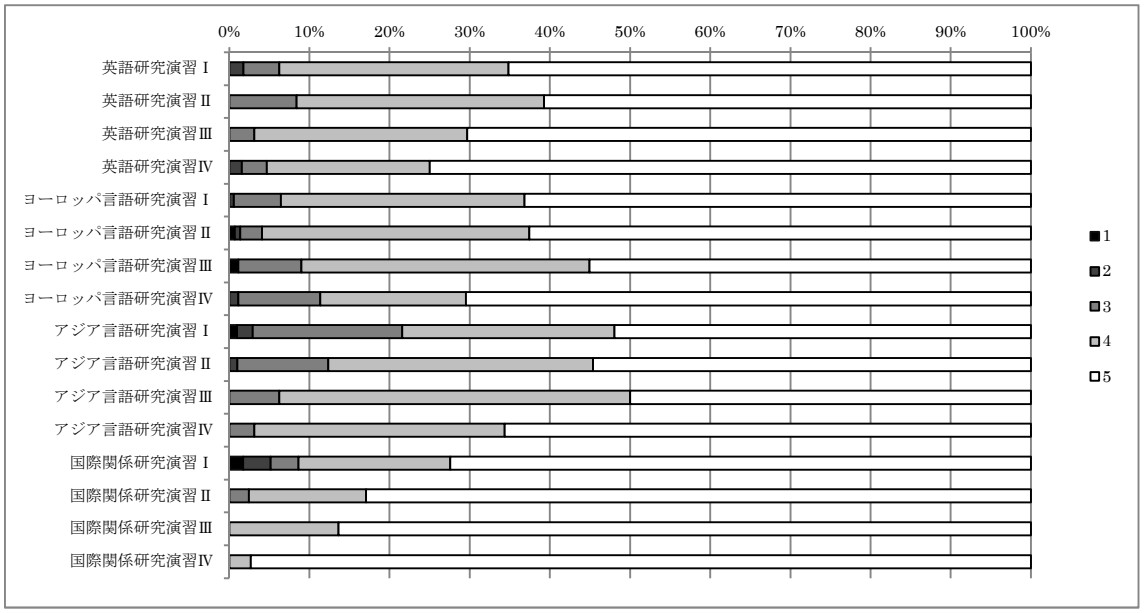
図 15　１・２年生必修科目事前事後学習時間



3.　研究演習

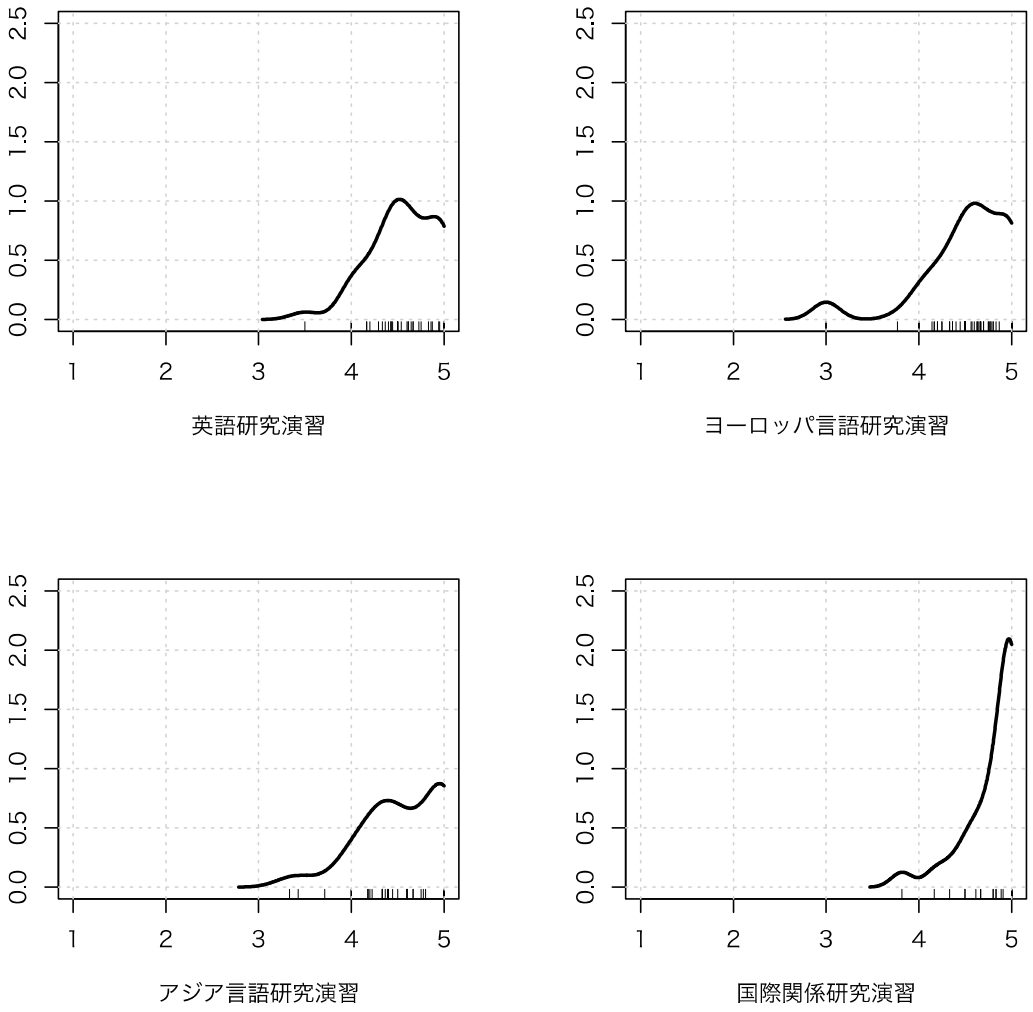
研究演習については、学科毎にⅠ～Ⅳに分類し、満足度についての回答の割合を調べた。

図 16　「研究演習」満足度割合



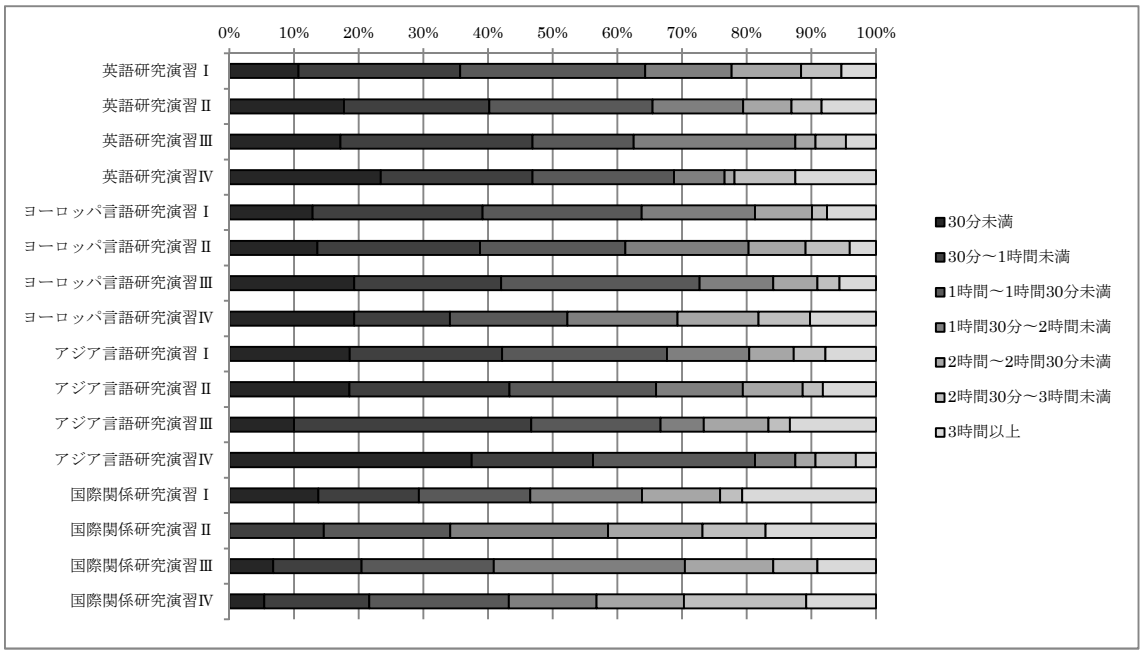
満足度の高い「研究演習」の中でも「国際関係研究演習」の満足度が特に高いことが分かった。クラス毎の満足度の分布を見ても、やはり、同じ傾向であることが確認できた。ただし、以下のグラフでは、Ⅰ～Ⅳを区別せずにまとめた。

図 17　「研究演習」クラス単位満足度分布（カーネル密度推定）



事前事後学習についても調べたところ、国際関係研究演習が事前事後学習の時間が長い傾向が見られた。

図 18　「研究演習」事前事後学習時間

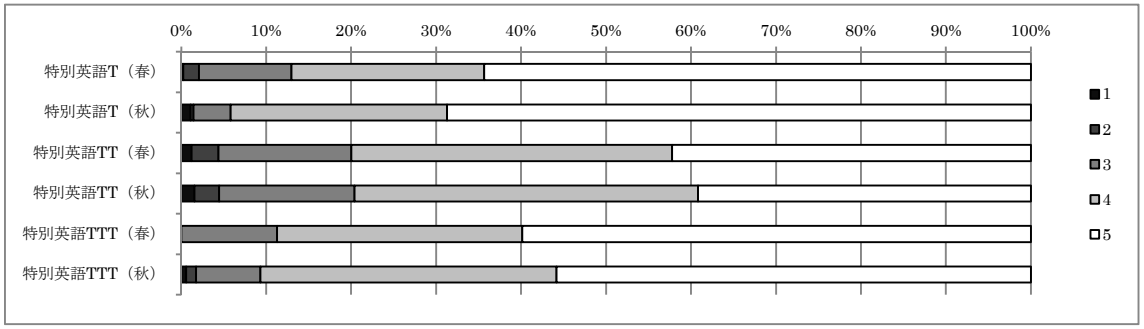


研究演習については、国際関係学科から学ぶべきことがあろうと思われる。

4.　特別英語

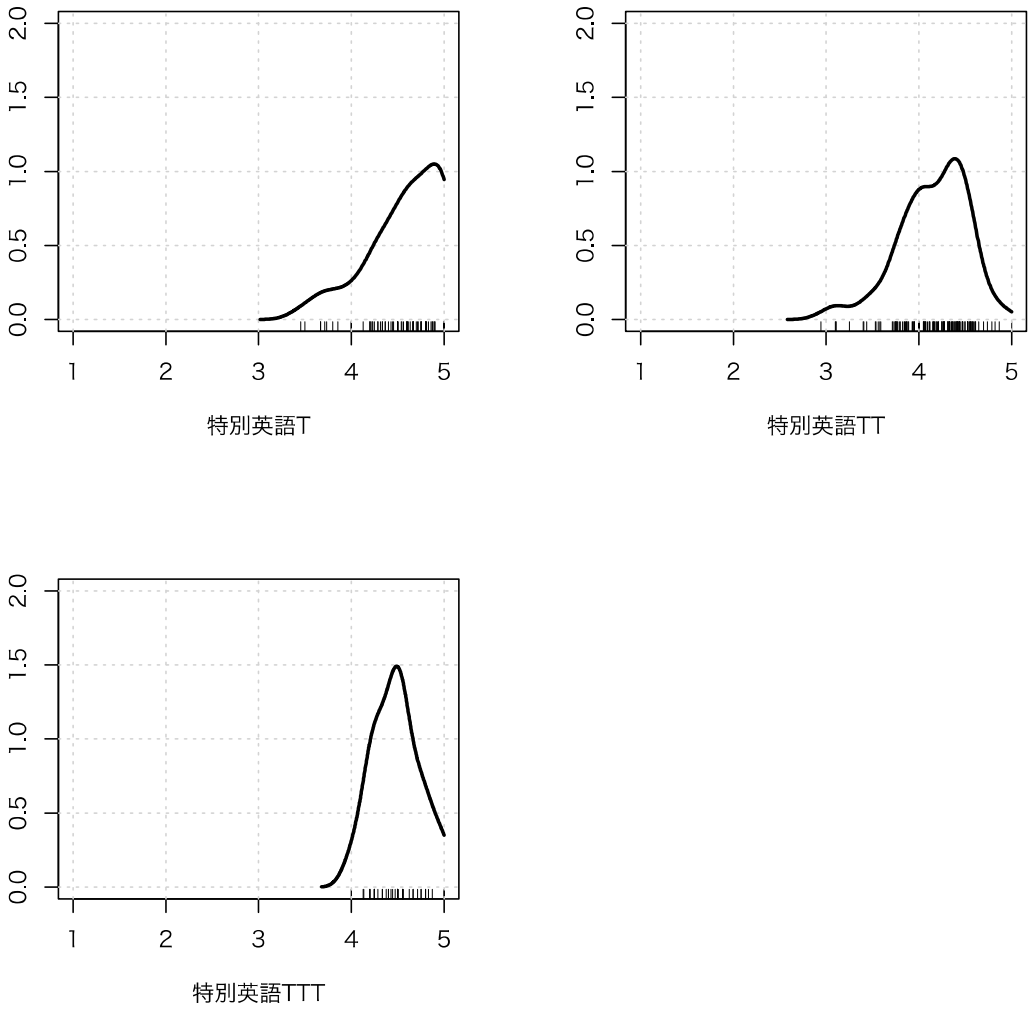
３つのカテゴリー毎に満足度の割合を調べた。

図 19　「特別英語」満足度割合



従来通り、満足度は、科目を選択できる事前登録クラス（T）がもっとも高く、ついでヨーロッパ･アジア言語学科で習得単位数が少ない学生のための自動登録（特別）クラス（TTT）が高く、指定クラス（TT）がもっとも低かった。クラス単位の満足度の分布にも同じ傾向が出ているが、自動登録（特別）クラス（TTT）が 4 以上に収まっていることが目立つ。ただし、グラフでは、春学期科目と秋学期科目をまとめた。

図 20　「特別英語」クラス単位満足度平均分布（カーネル密度推定）



事前事後学習では、事前登録クラス（T）よりも自動登録（特別）クラス（TTT）の方が若干長い傾向が見られた。おそらく、卒業のために努力した学生が多かったためではないかと推測される。

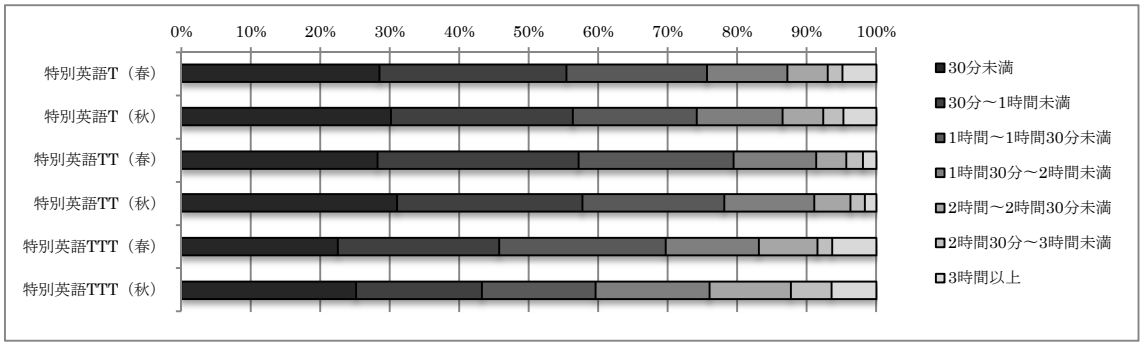



図 21　「特別英語」事前事後学習時間